



128,050円

1世帯当たりの
年間電気代

総務省「家計調査」

「1世帯当たり年間の品目別支出金額、
購入数量及び平均価格（二人以上の世帯）」（令和2年）

令和2年4月7日、新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的に、7都府県に初の緊急事態宣言が出されてからおよそ1年半が経つ。不要不急の外出自粛やテレワークが求められたことで、自宅にいる時間が以前と比べて長くなった人は多いだろう。ステイホームにより、電気代は高くなったのだろうか？
総務省の『家計調査』をもとに調べてみた。

「二人以上世帯」を見ると、令和2年の1世帯当たりの年間の電気代は128,050円で、令和元年の129,905円よりも1,855円安くなっている。ただし、月別に見ると緊急事態宣言が出される前の令和2年1月～3月がいずれも前年同月に比べて安くなっているのに対し、4月以降はおおむね前年同月よりも高くなっている。また、「単身世帯」を見ると、令和2年は1世帯当たり年間69,498円で、令和元年の68,399円より1,099円高くなっていた。

電気代は気温の影響を受けるため、月別の変動も気になるところだ。令和2年の「二人以上世帯」の月別電気代を見ると、最も高かったのは2月で13,201円だった。例年1月から4月にかけて電気代が高くなっている。一方、最も安いのは7月で令和2年では8,585円となっていた。同じ年でも、月によって1.5倍の開きがあるということだ。

今後テレワークが浸透すれば、自宅での電気代に敏感になりそうだ。平成28年に始まった電力の小売全面自由化で登場した新電力なども上手に活用しながら、家計への負担を少なくしたい。

12.8年

電気冷蔵庫の
平均使用年数

内閣府「消費動向調査」

「主要耐久消費財の買替え状況」
（令和2年4月～令和3年3月）

我が家では毎回突然やってくる家電製品の故障。猛暑の中、ある日突然エアコンが効かなくなった時はかなり焦った。壊れてみると気になる家電製品の使用年数、平均的にはどのくらいなのだろうか。

内閣府が実施している『消費動向調査』の「主要耐久消費財の買替え状況」（令和2年4月～令和3年3月）によると、「買替え前に使っていた品物の使用年数」は、電気冷蔵庫12.8年、電気洗濯機10.7年、電気掃除機7.6年、ルームエアコン13.4年、カラーテレビ9.9年となっていた。12～13年ほど使用されているルームエアコンと電気冷蔵庫に比べ、カラーテレビと電気掃除機の使用年数は短い。

カラーテレビに関してはデジタル放送や4K、8Kへの対応もあり、10年を待たずして買替えるのはわかる。では、電気掃除機を7.6年で買替える理由は何だろうか。最も多いのは「故障したから」で58%だが、「上位品目が欲しかったから」つまり「今持っているモノより良いモノが欲しい」という理由が26.4%を占める。これは電気洗濯機9%、ルームエアコン15.4%、電気冷蔵庫17.9%よりも高い割合である。また、電気冷蔵庫の買替え理由を年代別に見ると、29歳以下では「住居の変更をしたから」、30代では「上位品目が欲しかったから」、40代以上では「故障したから」が最多となっている。

一般的に新製品のほうが省エネ性能は高いとは言え、家電製品の買替えは廃棄やリサイクル時の環境負荷も加味して考えたいものだ。

（執筆／ライター 更田 沙良）